

外国語能力開発センター

Center for Foreign Language Proficiency (FLP)

ニューズレター No. 1

FLP 初年度活動報告

FLPの設置・研究活動の目的は「日本語を母語とする日本人の外国語力の把握及びその育成・向上に向けた外国語学習・教育モデルを開発し、組織的に実施・検証をし、その成果を内外に発信する」ことにある。

初年度の2012年度は、はこの目標に向けて、本学の国際コミュニケーション学科の学生を対象として、学生の英語学習に関するアンケートの実施、外部指標を用いての英語能力レベル(入学時と1年後)の測定など、パイロット的な研究を開始した。平行して、TOEIC等の外部指標で測る英語力・語彙力を言語学的視点から調査し、近年、英語能力・レベルの多様化が指摘されている日本人の学生の英語能力の効果的な把握に向けての言語学的知見からの基礎研究を開始した。

<多様化している日本人の英語能力レベルと学習者のタイプの把握>

1. 外部指標による学習者の英語能力レベルの把握

学習者の英語能力レベルの把握のため、外部指標のCASECを3回実施し、3回の結果から全体(及び個人)の英語力の変化・推移を観察。第1回と第3回の実施と同日に行われたTOEICテストとの関連も分析。この研究は対象学生を卒業時まで継続予定。今後は、2013年4月入学新入生にも同様の調査を予定。

対象: IC専攻1年生 (150名弱)

時期: 第1回(入学前) 第2回(前期終了時) 第3回(後期終了時)

*第1回と第3回に関しては、同日にTOEICも受験

2. 『英語学習についてのアンケート』による学習者のタイプの把握

現在の英語学習者のタイプを把握するため、上記1の学習者を対象に以下の3点に関して、入学前と後期終了時の2回、CASECの受験と時期を合わせて実施。また、アンケートの回答を元にCASEC及びTOEICとの関係も調査。

- ・ 英語の勉強の仕方
- ・ 英語に対する意識、動機
- ・ 英語の学習歴

このアンケートを入学時と1年後の2回実施することで、大学での英語学習や経験による変化の観察、英語力の伸びとの対応などを検証予定。

<英語能力に関する基礎調査>

1. 語彙に関するリサーチ

英語能力と語彙力に相関があることは広く知られており、大学での英語教育でも、語彙力の養成は重要事項である。既存のリスト(以下)の重なり具合を調査し、大学での英語教育で習得が求められる語彙としての基礎資料を整備。今後も他のリストなども調査予定。

・ JACETの基本語リスト(8000)* ・ Academic Word List (570) ・ TOEICの頻度の高い語彙**

・ 『京大学術語彙データベース基本英単語 1110』 研究社 ・ 『東大英単』(280) 東京大学出版会

*通称、JACET8000

**TOEICの語彙に関しては、IC学科の神崎正哉先生のご協力を頂いた。

2. 外部指標で問われる英語能力の調査: TOEICに関するリサーチ

外部指標として広く採用されているTOEICにおいて問われる英語能力を「言語体系」の視点から分析。今年度は、文法問題として位置づけられるPart 5の「文法事項」「問題文全体の複雑さ」について分析開始。

(文責 FLP講師: 藤巻一真)